

## アルコール依存症治療の現状と将来の展望

コーディネーター 樋口 進

世界保健機関 (WHO) の統計によると、世界の疾病負荷 (disease burden) の4.0%はアルコールによるものだという<sup>3)</sup>。これは、高血圧(4.4%)、たばこ(4.1%)に次いで、3番目に高い数字である。また、同じ報告書は、アルコールは60以上もの病気の原因となり、2000年に世界の180万人がアルコールのために死亡し、これは全体の3.2%に相当する、と記載している。このようにアルコールは健康問題の主要な原因の一つであるが、同時に社会問題の原因としても重要である。昨今話題になっている飲酒運転による死亡や外傷、飲酒に伴う暴力や虐待はその一例である。その悲惨さは、2006年8月に福岡県で起きた幼児3名が犠牲になった事故を思い起こせば充分であろう。

上記のようなアルコールに関係した問題を総称してアルコール関連問題と呼ぶ。一般にアルコール関連問題の大きさは、平均アルコール消費量と平行して動くことが知られている。わが国成人一人当たり(15歳以上)の平均飲酒量は、1993年をピークに最近少しずつ下降傾向にある<sup>1)</sup>。しかし、2004年には純アルコール換算で年間7.7リッターであり、世界的にみても依然としてそのレベルは高い。厚生労働省は1日平均純アルコールで60グラム(ビール1.5リッター)以上の飲酒

を多量飲酒と呼んでいる。2003年に実施された全国調査では、多量飲酒者がわが国に860万人いると推定された<sup>2)</sup>。また、同じ調査はICD-10の基準を満たすアルコール依存症者数を80万人と推定している<sup>2)</sup>。

アルコール依存症は予防が最も大切である。その主要な理由の一つに依存症の難治性が挙げられる。実際、様々な治療上の工夫にもかかわらず、治療1年後の断酒率は30%前後に低迷している。この低い断酒率に加えて、わが国を取り巻く状況は、依存症の治療を益々困難にしているようにみえる。

その理由として、まず、第一に治療形態の多様性が挙げられるであろう。飲酒人口の多様化に伴い、最近、女性や高齢アルコール依存症の増加が目立つ。従来の中年男性中心の治療プログラムに加えて、上記対象者向けのプログラムを用意する必要性に多くの治療施設が迫られている。また、入院中心治療から外来治療への移行が進んでいるため、専門病棟を断念して新たな治療形態を模索している治療施設も多い。断酒会等の自助集団も以前に比べてその勢いに陰りがみられ、医療機関での治療後の受け皿となりにくくなっている。その第二は合併症の問題である。女性・高齢者の増加は、うつ病、人格障害、認知症などの精神科合

第102回日本精神神経学会総会=会期：平成18年5月11日～13日、会場：福岡国際会議場

総会基本テーマ：ニーズの多様化と精神医学・医療の新たな展開

シンポジウム アルコール依存症治療の現状と将来の展望 座長：樋口 進 (独立行政法人国立病院機構久里浜アルコール症センター)、齋藤 利和 (札幌医科大学医学部神経精神医学講座)

併症の増加をもたらしている。また、他の薬物乱用の合併も増えているようだ。当然のことながら、これらの合併症は治療を困難にしている。さらに、acamprosate や naltrexone といった欧米で使用されているアルコール依存症の新薬がわが国には当分導入されない、という事情もある。

本シンポジウムではこのような現状を踏まえ、第一線で活躍している5名のシンポジストが治療実態の確認と将来への展望を行った。まず、精神科医療機関や社会復帰施設における治療実態について報告された。次いで、薬物治療および心理社会的治療の主流になりつつある認知行動療法の現状に関する報告があり、最後に今後の展望についての発表と討論があった。

治療の向上には、豊富な臨床エビデンスが欠かせない。アルコール依存症治療の主体は心理社会的アプローチであるため、このエビデンスはわが

国独自のものである必要がある。本シンポジウムの発表にもある通り、治療に関するわが国のコンセンサスについてはある程度明らかになった。しかし、同時に治療エビデンスには乏しい現状も明らかにされた。このシンポジウムは、向こう数年間のわが国における最重要課題は、RCTによるエビデンスの蓄積である、と示唆しているようだ。

#### 文 献

- 1) Higuchi, S., Matsushita, S., Maesato H., et al.: Alcohol today: Japan. Addiction, in press
- 2) 尾崎米厚, 松下幸生, 白坂知信ほか: わが国の成人飲酒行動およびアルコール症に関する全国調査。アルコール研究と薬物依存, 40 (5); 455-470, 2005
- 3) World Health Organization: Global Status Report on Alcohol 2004. World Health Organization, Geneva, 2004